

第41回環境安全委員会 議事要旨(案)

1. 開催日時 2019年3月29日(金) 9:59~11:16
2. 開催場所 ホテルイースト21東京 2階 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、村山委員、織委員、小安委員、米沢委員、
佐竹委員、河野委員、風祭委員、大藤委員
(環境省) 成田課長、亀井課長補佐、橋爪課長補佐、生越調査官(順不同)
4. 議事(公開)

【議題1】2018年度下期の操業状況

資料1に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 図3で変圧器の現地抜油の処理重量の月別・累計値が少し横に寝てきているというのがありまして、図1のところで処理台数が寝てきているというのがありますが、処理台数が寝てきているというのは、処理台数という中には図3の数字が入っているのか、入っていないのか、別なものなのか。

○JESCO 図1のところで寝てきているところと図3の寝てきているところの関係があるかどうかという御質問だと思うのですが、結論的に言うと関係がないということです。

図1につきましては、ちょっと説明の中でもさせていただいたのですが、変圧器のほう計画値に対して1月以後、計画に対して下がってきているというところですが、これは今年度の1月から3月に超大型あるいは大型の変圧器を搬入予定だったものが次年度以降になったというところで寝てきているというところがございます。

それから、図3が寝てきているのは、これは仕上がり的には3月になるとほぼ計画どおりになってくると想定しているのですけれども、これも保管者様のほうの都合で、現地で抜油したものを早く搬入してほしいという御要望があったものですから、年度の中で入り繰りがあったということで、このようなグラフの形になっているところがございます。

○委員長 これは両方を足して見なければいけないということですか。これは先に出ているから送られてきているので横に寝ているという話でわかりましたけれども、全体のおくれの中で、今のお話だと、現地で抜油したものの処理というのをこの変圧器の処理に絡みますよね。これはどう見たらいいのか、少しはっきりしない。水熱の処理としては、全体は同じですよ。両方を合わせて見ていかなければいけないと思いますので、ちょっと違うというのが。全体がどうだという中で見ていったものを図1の形で作っていただいて、図3についてはそのうちという形の整理の仕方のほうが我々としては理解しやすいのです。先生方も理解しやすいのではないかなと。

○JESCO 変圧器の場合は、東京の場合、5t以上のものは現地で抜油して持ってくるというのがありまして、保管者さんで抜いて持ってくる、それはタイムリー行われる場合があるのですけれども、保管者さんであらかじめ抜いたものとか、将来処理するのだけれども、早目に抜いて油だけ処理してほしいとか、そういうのがあります。それは月ずれではなくて、年度ずれというものもありますので、筐体がまだ残っているのですけれども、今年度、例えば消防法上の問題で油は早く処理してほしいとか、そういうのも受け入れておりますので、この処理台数、重

量と、抜油した油というのは月ずれとか年度ずれがあります。なので、関連づけて見られないところがあるのです。

○委員長 逆に言うと、後ろのほうの6ページの処理計画を見ていると、その両方を合算した数字になってくるように思うのですが、そこら辺のところの形を正確に。きっちりはいけないというお話はわかりましたけれども、全体を見た形で図5に合うような形のもので出していただく必要があるのかなど。あるいは、水熱で処理したものの油で見るのか。これはその関係が少し正確にはこの資料だけではわからない。今回は御説明でよろしいですけれども、そこら辺のところ、場合によったら事業者さんの都合の話が出てくるので、最後の段階でこういうことをやられるととんでもない話になるのです。そこら辺はもちろんJESCOのほうで話をさせていただいていると思いますけれども、ちょっと気になるところです。

○委員 今の委員長のお話に関連して、6ページから始まるこの図の中の処理計画というのは、いつの時点の計画だったのでしょうか。年度ごとに今のような話でずれてくると、多分計画を毎年見直していくという話が出てくると思います。

○JESCO 図5、6の今後の処理計画のところは、前回の環境安全委員会で長期処理計画を御説明した中のベースは変わっていないのですけれども、一つ、JESCOへ登録したものと登録していないものがあります。届け出はされているのだけれども、まだJESCOに登録されていない。それは、例えば19年度はまだ計画に入れられていないのがあります。変圧器については100数十台が届け出されているけれども、登録されていないもの、それは20年度以降に振り分けております。計画的処理完了期限を使うことなく、処分期間で処理はしたいのですが、北九州の事例もありますので、ある程度34年度が少し残るかなというところも想定しながら割り振っているのが変圧器になります。

コンデンサーはまだ増加傾向が見られておまして、届け出されているけれども、登録されていないものが3,000台ぐらい含まれております。それも19年度は計画できませんので、20年度以降に割り振っております。さらに、先ほどあったように、1年たつて分母がふえておりますので、増加するところを見込んで、まず処分期間になるべく処理することは努めていきます。ただ、34年はそれなりにまたふえたものがあると思いますので、少し余力を持ちながら計画をというところです。

○委員 多分、今わかっていることと、これから終わりにかけて出てくるものがあるように思いますので、この計画がどういう形で作られているか、少し詳しく書いていただくか、説明していただいたほうが良いと思います。

○委員長 今、図で示されているのは事務局と事前打ち合わせをお願いをしたものですが、昨年とやったのとことしやったのとどう違うのだというところは見ていかなければいけないだろうと。少しふえて、全体量としてふえているかどうか。これは北九の場合も最後のところで処理量がふえていくような形になっているけれども、最後のほうのまだ余裕があるからその中で吸収できるだろうという判断で、多分これから自治体のほうでも掘り起こしをされる。そこでふえてきたり、場合によっては減ってきたりするところがある。その変動要因なのですが、それは今、余裕がある部分で、今年度のところで処理、吸収できる範囲の中なのかというところを見ていく必要があるだろう。そういう意味でこれをつくっていただいた。少しふえているという話なのです。その段階でつくっていただく。毎年毎年つくっていただくという意味で、時点を書いていただく必要があるかもしれませんね。この時点で確定した数字だと

いうことで。これはもう当然のことながらJESCOのほうで、そこらを随時見直していただいていると思いますので。

○委員 計画に関連するところなのですからけれども、コンデンサーの軽量化が進んでいるということは、今までだけの傾向なのか、これから出てくるのは例えば新しいもので軽量化がずっと出てきて、掘り起こしをすればするほど、軽量化が進んでいくと重量ベースで計画を立てること自体が妥当なのかどうかという、そういう問題提起があると思うのですけれども、その辺はどのような議論が行われているのか。

○JESCO 直近やっていく中での軽量化というのは感じております。残っているものの全体のデータベースの中の平均重量はどうかというのは、まだ精査しきれておりませんが、多量保管者さんで大きいものがあって、そういうものは大分処理してきている過程がありますので、少量保管者さんのものは小型の傾向があるかなと感じております。

今後について、台数、重量という両方の数字をもって残りの年度を割り振っているところがありますので、必然的に平均重量は軽くなってくるかとは思っております。

あわせて、掘り起こしというのも、余り大型のものが認識されていないものがあつたという形は少ないのかなと思いますので、やはり軽量化は進んでいくと思います。

○委員長 基本的には、前処理段階、PCBを抜き出す段階と、水熱の抜き出したPCBを処理する2つの段階があって、2つの段階ともやらなければいけないので、そこは大きさによって少し変わってきたり、台数で考えるのか、重量で考えるのかというところの話があると思うので、そこら辺は抜き出したPCBの処理がどうなるかというところも出していただいているので見ていただいているとは思っています。

○委員 図7の廃PCB処理の図ですけれども、これで2019年から量がふえているのは、これはリンが入っているPCBの処理ですよ。2018年もちょっとふえていますよね。これはもう既にリンが入ったPCBの処理をされたという実績なのではないでしょうか。

○JESCO 18年の実績にはリンは含まれておりません。保管者さんの別のPCBを処理できたという実績になっております。

○委員 そうすると、2019年が初めてリンの入ったPCB処理ですよ。そこは大丈夫なのですか。技術的にはほぼ確立されているのですか。

○JESCO リンの処理が大丈夫かという御質問ですか。その実証設備で試験したことを用いまして、実機設備で処理しようと思っております。19年度に設置工事と試運転と実操業という形になりまして、年間の残り第4四半期のところでやっと実操業になりますので、まだ処理は少なくなっています。20年度はほぼ1年間、リンのものを処理できる期間、残ったものが21年ということで、3カ年準備しておりますけれども、実際的には2年間ぐらいのプラントの稼働で処理できるかなと見込んでおります。

○委員長 もうリン含有PCBの前処理施設は建設に入っているのですよね。実証試験は御報告いただいて、大丈夫だろうということ。

○JESCO 設計して、工場で作製という段階で、現地は年度が明けてから始まっていくような状況です。

○委員長 いかがでしょうか。ほかに御質問はよろしいでしょうか。幸いにしてといたしますか、初めてということではないのかもしれませんが、トラブルの報告がなかったということではよかったなと思いますけれども、ヒヤリハットとか実質被害、健康被害とか、そういうとこ

るも最後になると緩むのが一番心配ですので、これは安心せずにしっかり続けていただくことが必要だろうと思います。よろしくお願いいたします。

【議題 2】 2018年度設備保全実施項目と長期保全計画に基づく2019年度設備保全予定項目資料 2 に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 2018年度に実施している項目について、やり残した分を2019年度に継続してやるというのが結構あるのですね。2018年度にやったけれども、やり漏らしたというか。だから、2019年度に予定しているという項目も中に幾つかあるように思うのですが。

○JESCO やり残しということではないのですが、18年度に更新して、様子を見て19年度やるというものもあります。全体的には長期保全計画等を定めて、大きな機器の更新計画をずっとやってきたのですが、18年度、オンラインモニタリングの更新をもって、大型機器は大分終わりました。あと、軽微な状態の形で整備していくことで十分かなという状況に変わってきています。

○委員長 それから、部品の入手ができなくなるので更新したというのがありますけれども、更新したのは部品を更新したということですね。今の段階でやって、また先にやるわけですね。その最後の段階まで大丈夫だというのは、これまでの経験から確認をしているということでしょうか。

○JESCO そうですね。プラントが残りのところを見通して、パーツの交換か本体の交換か見定めながらやっております。

○委員長 例えばパーツを保管して、万が一に備えてということは考えてはいないのですか。そこまで必要はないだろうという判断ですか。

○JESCO パーツによってはもう生産が中止になるようなものがありますので、それは予備品を用意しておいて、いつでもできるように準備しています。

○委員長 最後のところでトラブルと計画が大きく変わってしまいますので、しっかりそこら辺の計画をつくっていただいているようですから、よろしくお願いいたします。

【議題 3】 リン含有PCB油前処理設備設置工事の進捗状況

資料 3 に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 これは、実機の運転は新しく始めることですね。2022年度は丸々1年あいているのであれですが、そこら辺は余裕を見て、万が一というか、いろいろなトラブルがあればということですね。

○委員 268kLのリンが入っている油を処理すると、これが1%ぐらいあるとすると、処理したら数トンのリンができますよね。その後のリンはどのように処理されるのですか。

○JESCO 処理したときのリンですか。

○委員 リンが出ますね。リンの塩かもしれないけれども。

○JESCO 水側に行ったリンですね。

○委員 そうです。その後の処理をどうするのですか。

○JESCO リンについては、PCBが5,000ppm以下を確認して、無害化処理認定施設のほうで廃ア

ルカリとして処理いただく形になります。

○委員 リンについては、業者に任せるとい形になるのですか。

○JESCO はい。

○委員 杞憂なのかもしれないのですけれども、今回、新しく実機で行われる、しかも2020年度がピークということになっていると思うのですが、2020年度は大きなイベントが予定されていて、特にこの処理施設の近くにいろいろな競技場があると思うのですけれども、そういった関係で2020年度、特に前半、何かの形の調整が入る可能性がないのかどうかということです。

○JESCO 2020年度、オリンピック等につきましては、確認しているところでは操業的などところについては制限がありませんし、物が来る搬入について、道路が混むとか、そういったところは懸念があるのですけれども、何か情報があれば連絡いただくようになりますが、今のところは交通の規制も特になく聞いています。

○委員長 あそこは2会場で競技が結構たくさんあるのですよね。私も東京都のオリンピックのアセスの委員会にかかわっていて、あれを見えていますけれども、競技をやるときに、7月の末から8月ですか、あのころに搬入についてうまく調整をしないといけなくなるのだろうということは想定されるのです。そこら辺は、十分事業者の方と相談をして調整をしていただく必要があるかと思えます。

余り長い期間とまるということはないと思えますけれども、その前に現実問題としていろいろな工事をやっているの、施設の工事用の車両が入ってきて、それがどのくらいふえるかということも議論していますが、そんなにはふえないので、今のところ支障はないのだろうと思います。

○JESCO その他資料1「大量保管PCB含有感圧複写紙・汚泥物の特措法の届出情報」ということで、ことし1月25日に日本製紙さんのほうからプレスリリースされた資料でございます。

1のほうに書いてございますように、感圧複写紙が勿来、いわきの工場の倉庫内に518t、横浜市内の倉庫内に56tございましたということで、東京エリアに関係するところは横浜ということになるのですけれども、※印がございましたように、これは顧客からの寄託品ということで、預かっているものもまじっているということで、今後、詳細について調査を行っていく。その前に、「記」の上を書いてあるように、実際のPCB含有の有無を含め、濃度、数量、及び今後の処理対応等の詳細につきましては、社内に設置した対策委員会にて具体的な調査を進めていく予定ということで、まだ、当方で処理するかどうかということもはっきりしていないもので、当然、登録等も受け付けておりません。そういった状況でございます。

○委員長 これは将来決まってくると、東京事業所はどうかかわるのでしたか。感圧紙は東京事業所では一応お願いをする形になっているのですよね。ですから、東京事業所での処理には、今の制度上は直接かわらない話ですけれども、東京事業所の管内のものであるということ御説明をいただきました。これはどうなっても、東京事業所で処理する対象にはならないということです。関連の情報ということで御紹介していただいたと理解しています。

こういうものが東京事業所でやらなければいけないものが出てくると大変なのですけれども、北九のときも、幾つもありましたけれども、件数は多かったけれども、大きいものはそんなになかったと理解しています。

この辺のところはJESCOだけではどうしようもない話で、自治体のほうでしっかり東京都も含

めて洗い出しをしていただく必要があるということでございますので、そちらのほうはよろしくお願ひしたいと、環境省のほうからよろしくお願ひします。

○委員 江東区としては、とにかく安全に着実に処理をしていただきたいということを切に願っています。

きょう、環境省の方が見えていますので、ちょっと教えていただきたいのですけれども、今掘り起こし作業をされていると思うのですが、広報活動をされているということで、コマーシャルも拝見したということも伺っています。これからの中小企業の方とかの掘り起こしとかがあると思うのですが、処理費用に対して自己負担も発生すると思うのですけれども、そういうことも厳しい中小企業の方もいらっしゃるかなということが懸念されるわけです。その件に対してどのようにお考えなのか、確認したいと思います。

○環境省 環境省でございます。御意見ありがとうございます。

中小企業者に対しては、やはり処理料金が負担になってくるということがございますので、環境省のほうから280億円、都道府県のほうからも拠出いただきまして280億円、合計560億円の基金を造成してございます。

それから、中小事業者であれば、処分費用の7割、もし事業者が個人事業主であった場合には95%ということで5%の負担で済むように制度を構築してございますので、それによって適正に処理を進めていただくということでございます。

○委員 ありがとうございます。それはきちんと皆様に周知されているということでよろしいわけですね。

○環境省 周知しておりますし、JESCOのほうに登録、処分という話があって、相手が中小事業者さんであれば、JESCOのほうからも改めて御案内をいただくということで運用してございます。

○委員長 実際には、新たに掘り起こされた事業者の方には当然行政なり、JESCOのほうから個別にお話することになりますので、そのときにいろいろなものが出てくるということで、北九の場合もそういう制度を使われているケースがありますから、そういうのをきちんとやっていただけると思います。

○委員 このPCBの問題は、着実に処理して安全にやっていくということが一番重要であることはもちろん間違いのないのですけれども、SDGsとの関係をお伺いしたいなと思っているのです。

PCBを適正に処理するということと、一方、日本政府が推進しているSDGsとの関連で、どういう意識なり、その辺について何か動きなり、社員教育なり、そういうところもあるのかどうかということをお伺いしておきたいと思いました。

○委員長 JESCOのほうで答えいただけますか。

○JESCO 当社はPCBの処理ということが会社の本務でございまして、それが環境に対する一番大きな貢献でございまして、SDGsにも含まれている課題でございまして、まずはこのPCBをまさに安全、安定的にしっかり処理していくということがSDGsに関しましても一番の貢献かと思っております。

さらに、SDGsは広いものでございまして、私どもも各事業所がそれぞれの地域にございまして、地域の皆様といろいろな地元の活動などに参加させていただいたりということができないかということで、各事業所でも取り組みを行っているところでございます。

また、JESCOといたしましても、今後、PCBも含めてどのような社会貢献をSDGsも含めてできるかという問題意識を持っておりまして、まだなかなか大きな形になっておらないのですけれど

ども、そういったチームも立ち上げて何ができるかということを検討を進めているところでございます。

○委員 どうしてもPCB処理はマイナスのイメージ、事後处理的なイメージがあるのですが、SDGsの大きな流れの中で前向きな意味合いというか、そういうのを関連づけて、広報活動も含めて広く、今みたいな取り組みをもしなさっているようでしたら、またこの委員会等でもSDGsとの絡みも御報告いただければなと思います。

○委員長 重要なことですので、そういう取り組みがあれば次回にでも御報告いただければと思います。